

## 北東アジアの移民と労働力移動

アジア開発銀行（ADB）地域協力統合部門部長

朴信永

アジア開発銀行（ADB）経済調査・協力部エコノミスト

竹中愛子

労働力の移動は、経済と社会発展を左右するような経済統合における統合の柱の一つとして認識されている。しかし、財貨・サービスや投資の移動と比較して、人や労働力の地域間移動は、現在に至るまでの潜在性のすべてが利用されつくしているわけではない。

北東アジア地域における移民や労働力の移動パターンには、多くが中国ロシアからの人的移動であるという特徴があり、そのうちのいくらかは北東アジアの他地域に向かうが、ほとんどの割合は、他のアジア地域やそれ以外に向かう。米国、ウクライナ、カザフスタンと香港、日本という五つが北東アジアから出発する国際的な移民の主要な目的地であり、北東アジアからの移民が北東アジアの国のうちで移民としてとどまる割合はわずか9.6%である。

北東アジア地域間の人的移動は歴史的事象に左右されてきた。最近では、労働者や留学生の移動が支配的で、当初それらは日本、中国、韓国に向かったが、その傾向は時間を通じて増加したものの、増加幅はわずかにとどまった。加えて、域内におけるモンゴルから、あるいはモンゴルへの移民は、過去十年間にわたって増え続けている。近年の労働者の移民の移動部分には、留学生と研修生が混在するのと同時に、熟練労働者と未熟練労働者が混在する。

アジアにおける労働力移動の重要な変動因子は、高齢化と人口動態の変化である。日本は急速に高齢化し、中国、韓国は他の非北東アジア各国同様に今日まで労働力を供給してきている。しかし近年高齢化と人口動態の変化は、中国、韓国でも問題となってきており、外国人労働者に対する需要が高まっているにもかかわらず、これらの国からの人口移動圧力は減少している。中国の移民は、現地における賃金上昇や、高齢の両親を介護するために母国に帰国するものが多く表れることが期待されるため、今後も同様に減少するだろう。これからの北東アジア地域に向かう移民は、北東アジア外からの移民となるだろう。このことから、将来の北東アジア地域は、移民の域内シェアが少ない純移民受入国という地域になる可能性がある。

アジア地域は、世界のバリューチェーンにおけるハイエンドなものを供給するという意味での、質の高い財貨・サービスの生産に適合させるような構造変化が進行している。したがって、この地域は、人材の国際的な移入緩和により、熟練労働者の純移民排出国という立場を脱却することを達成することを是認する。熟練労働者の移動促進は、技能承認の枠組みや、起業家や投資家の交流環境を創るなどの枠組みを用意することができる。旅行と同様にビジネスや学術の対話を拡張することは、ある領域・分野に残っている文化的、言語的な障壁を除外することにも貢献しうる。今日まで緩和の程度が制限されていたこの分野において、大きな収穫がある。

[ERINAにて翻訳]